



ドクター・ワッシー

診察室

ざくばらん

統計とは真逆

経過観察大事

片頭痛と脳梗塞

ウンには、「嘘、真っ赤な嘘、統計」の3種類があるという。が、医学には、統計がいっぱい使われている。

「センス。私、25倍も脳梗塞になりやすい。血液サラサラの薬のみた」と、息急ぎ切って来た。37歳のU子さん。スキンズキンする頭痛が持病だ。その前に、20〜30分、視野半分にモザイクがかかる。閃輝暗点という前兆のある片頭痛である。

確かに、片頭痛の患者さんは、そうでないひとよりも脳梗塞になりやすいという統計がある。前兆のないひとで、脳梗塞の危険性が7倍。前兆があるひとでは、25倍も脳梗塞を起しやすさというのだ。前兆時に

は脳動脈が縮む。その後拡張して動脈周囲の神経が炎症を起す。動脈壁が傷つく。それが繰り返されて脳梗塞が起きやすくなるというのである。

が、ホントかいな？片頭痛の患者さんを毎日のように診ているワッシーには、そんな数字も理屈も、いまいちピンとこない。

最近の統計はどうか。片頭痛患者の脳梗塞発症の危険性は、それでも約2倍ということになっている。だが、7倍や25倍とはエライ違いではないか。いや、もっとすごい報告もある。遺伝子で調べたら、前兆のない片頭痛患者のほうが脳梗塞になりやすいというのだ。真逆だ。そつだ。統計は統計にすぎない。取り方によって、真っ赤な嘘が出来上がるので、理屈がそれについてくる。

もちろん、U子さんには、脳梗塞の予防薬など、処方ほしない。1、2年に1回は、頭の中をMRI（磁気共鳴画像装置）で調べているが、どこにも異常はない。片頭痛の特効薬もきちんと服用している。タバコは止めた。ビールも使っていない。「脳梗塞をこわがる理由なんてない」と、断言したら、「あと、コワいのはセンスの顔だけ」だって。ウン？

（石黒修三 いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身）



イラスト・野畑桃花